

味覚障害の主な原因

口腔・舌のトラブル

- ・唾液の減少(加齢、薬剤、唾液腺の病気などによるドライマウス)
- ・亜鉛不足(薬剤、加工食品などに偏った食事、全身疾患、過量飲酒など)
- ・口腔疾患(舌苔、舌炎、カンジダ症)
- ・鉄不足、ビタミンB₁₂欠乏症

脳・神経のトラブル

- ・糖尿性神経症
- ・脳梗塞後遺症
- ・精神的ストレス



③ 味覚障害の原因は？

人生100年時代の健康管理
桐生大学桐生短期大学副学長 山科 章



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、元日本循環器病予防学会理事長。

前回、味覚障害は気が付きにくく、食欲低下から栄養不足、濃い味にすることが塩分や

か。加齢とともに味蕾や味細胞の数が減少し、唾液腺から分泌される唾液の量が減ります。唾液の中の物質が溶けにくくなるので味細胞まで届きにくくなりま

す。糖尿病、高血圧、慢性腎臓病など生活習慣病があるなど、木槽の小さな血管も障害され

糖分の摂取過多につながることがあります。特に糖尿病では神経障害を併しや感じるのは舌の表面にある味蕾(みらいの味細胞(みらいほ))の問題が起ころす。最近、注目されているのは亜鉛不足です。

味細胞への血流が低下します。特に糖尿病では神経障害を併しや感じるのは舌の表面にある味蕾(みらいの味細胞(みらいほ))の問題が起ころす。最近、注目されているのは亜鉛不足です。

成がうまけ行えなくなっています。DNAは細胞核の中の染色体の中にある体づく設計図です。子供で亜鉛が不足すると成長障害が起ころす。大人では皮膚炎、生殖機能の低下、脱毛、慢性下痢、免疫力低下、神経感覚障害などのさまざまな症状を起ころす。味覚

が低下するので味覚障害が起ころす。亜鉛は魚介肉、野菜、豆や種彦なども、食物中の亜鉛の吸収を妨げる物質が含まれていますが、亜鉛の吸収を促す物質がある必要です。その代表は、若し世代で、食生活が乱れると、亜鉛不足による味覚障害を予防するには、

味覚障害を予防するには、亜鉛不足による味覚障害を予防するには、亜鉛不足による味覚障害を予防するには、

保健・福祉

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。